

「災害時要援護者」の支援体制づくり

高齢者や障がい者、妊婦、外国の方等、災害時に支援が必要な方を「災害時要援護者」といいます。

災害が発生したら、安全な場所へ迅速に避難することが重要ですが、ご自分では避難することが難しい方や、ご家族だけでは援護の手が足りない場合等、災害時要援護者を地域で支え合う体制づくりが求められています。



① 平常時から「災害時要援護者」の情報を把握しておくこと

(※個人情報の保護に留意し、本人の同意を得るとともに、情報管理には十分な注意が必要です。)

② 「災害時要援護者」それぞれの支援者(できるだけ複数の方)をあらかじめ決めておくこと

③ 避難訓練を行い、実際に避難してみることで、支援体制に問題点がないか確かめておくこと

等が必要です。体制づくりは、受援者となる方の意見も取り入れて行うことが大切です。

中学生は地域防災の大きな力

地域防災の担い手を育てる取組みの一つとして、住民と中学生とが一緒に活動に取り組む事例があります。炊き出しや高齢者の避難補助など、いざというときに中学生の力を借りたいと思う役割を任せ、訓練を実施している地域もあります。相乗効果として親の参加率が増え、住民の訓練に参加する姿勢も変わり、地域とし

ての取組みも活性化します。何より彼らは、普段から地元をよく知っているのです。



■避難訓練



■高齢者体験

防災・減災備L(そなえる)ガイド～地域防災編～はじめての「自主防災活動」～

平成25年3月 発行／愛知県

○編集協力(五十音順、敬称略)

小栗 宏次 愛知県立大学 情報科学部 教授

国崎 信江 危機管理教育研究所 代表

栗田 暢之 特定非営利活動法人レスキューストックヤード 代表理事

廣井 悠 名古屋大学 減災連携研究センター准教授

福和 伸夫 名古屋大学 減災連携研究センター長

備える 防災 減災 ガイド

～LIFE<命・生活> LOVE<愛>～

地域防災編

～はじめての「自主防災活動」～



あいち防災キャラクター
防災ナマズン

災害はいつ起こるかわかりません。この「防災・減災備L(そなえる)ガイド～地域防災編～」は、地域の防災・減災の力として期待される“自主防災組織”の活動をはじめようとされる方に向けた、理解が深まる備L(そなえる)ポイント付の入門編防災チェックガイドです。

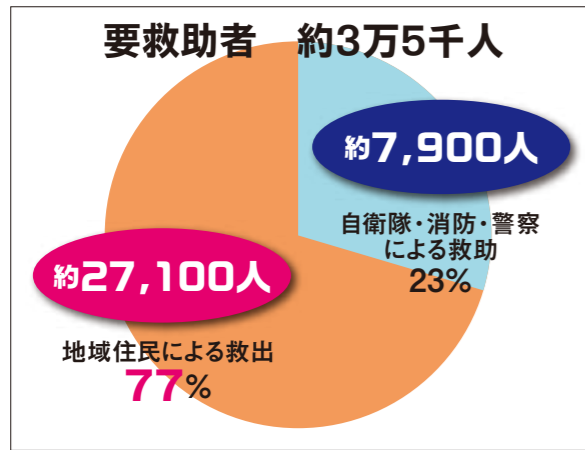
あなたの命(LIFE)、愛(LOVE)する人との生活(LIFE)を守るため、合言葉は「できることから備L(そなえる)、今すぐに備L(そなえる)」です。



あいち防災協働社会推進協議会

はじめに

自主防災組織の必要性



河田恵昭「大規模地震災害による人的被害の予測」(1997)より

ない状況であったことを意味します。

自主防災活動は、「**自分たちの地域は自分たちで守る**」という意思のもと、地域コミュニティの力を発揮し、災害被害から自分と家族だけでなく、地域全体を守る重要な「共助」の取組の一つです。

自主防災組織の現状と課題

愛知県における自主防災組織の現状をみると、平成24年4月1日現在の組織率は95.3%と、全国でも高い水準となっています。

ところが、県が平成23年度に実施した防災に関する意識調査では、「自分の地域に自主防災組織があることを知らない」と答えた方が6割に上りました。

自主防災組織の活動を活性化させ、地域の住民が参加する、身近な組織とすることが、今後の課題となっています。

備えるポイント!

<救急車の台数>

国の基準では、愛知県内に配備すべき救急車の台数は224台で、通常の救助要請には十分対応できますが、**県の人口約3万3千人に1台の割合**となっており、同時多発的に救助が必要となる大規模災害を前提とした体制にはなっていません。



災害時に地域コミュニティが力を発揮するために

大規模災害時に住民が助け合うことができる地域とするには、普段から住民同士の「絆」づくりや、地域にいる様々な分野の方と連携・協力できる環境づくりが重要となってきます。

地域での「共助」の担い手としては、地域住民で組織し防災活動を行う「自主防災組織」以外にも自治会や消防団、老人クラブなどの地縁組織、学校やPTA、防災リーダー、NPO・ボランティア、企業の自衛消防組織等、幅広い分野の方々が考えられます。また、住民の中には、医師、看護師、介護福祉士や外国語を話せる方等、災害時にその専門分野で協力を期待できる方も存在します。被害を減らすため、みんなが力を合わせることで、安全・安心な地域づくりを目指して、積極的に交流を図り、相互に協力し合える関係作りをはじめ、普段からの取り組みを実践しましょう。



自主防災活動を始めましょう

自主防災活動には、どんなものがあると思いますか？

防災訓練や防災資機材の整備・点検、防災マップづくりのほか、図上で避難所の運営体験をするものや、地図を使って災害時の対応策を議論するもの、災害時に想定される諸問題の解決策についてシミュレーションするもの等、ゲーム感覚で楽しみながらできるよう工夫された活動もあります。まずは地域の皆さんがこのような活動に積極的に参加するような環境づくりとして、ご近所のお友達同士での話題として「防災」・「減災」について話しをしてみましょう。身近な人に防災活動に関心を持ってもらうことが、「自主防災活動」の第1歩です。



備えるポイント!

愛知県がホームページで公開している「愛知県防災学習システム」で、大地震が起こったときの、自宅の様子をシミュレーションできます。我が家の耐震性は大丈夫か、確認してみましょう。

<http://www.quake-learning.pref.aichi.jp/>

1 自主防災組織内の役割分担は決まっていますか？

自主防災組織が活動を進めていくためには、組織をまとめる会長と副会長のほか、構成員一人ひとりの役割分担を決め、活動班を作ります。各班のメンバー構成は男女混合にすると、それぞれの視点から活動を確認でき、きめ細やかな対応が可能となります。活動班が決まったら、訓練を行い、実際の動きを確認することも大切です。また、所属する班以外の活動内容をお互いに理解しておくこと、災害時に人員が不足した時等に速やかに協力体制がとれます。

自主防災組織の班編成の一例		
編成班名	日常の役割	災害時の役割
総務班	全体調整 他期間との連絡調整 災害時要援護者の把握	全体調整 他期間との連絡調整 災害・避難状況の全体把握
情報班	情報の収集・伝達 広報活動	状況把握 報告活動
消火班	器具点検 防火広報	初期消火活動
救出・救護班	資機材調達・整備	負傷者等の救出 救護活動
避難誘導班	避難路(所)・標識点検	住民の避難誘導活動
給食・給水班	器具の点検	水、食糧等の配分 炊き出し等の給食・給水活動

〔自主防災組織の手引〕(消防庁)より

備えるポイント!

○ 地域内でバランスよく対応できる班編成

曜日や時間帯によって、活動に参加できる人員は異なります。災害の発生時間帯によって各活動班の人員ができるだけ偏らないように配慮しましょう。

また、地域の事業所と協力体制を作ると、昼間の活動人員の不足にも対応できます。

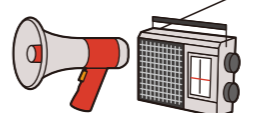



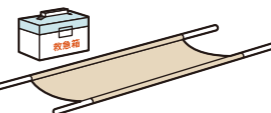


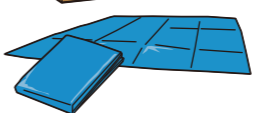
○ 地域内の専門家や経験者等との連携

地域にいる専門家や経験者(例:消防職員・団員等の防災・危機管理業務の経験者、医師、看護師、土木技術者やNPO、ボランティア、防災リーダー等)といった“防災人材”を把握し、それぞれの経験を活かした自主防災活動への協力をお願いすると活動の実効性が高まります。

2 備品・資機材や生活物資の定期的な点検を実施していますか？

災害時における活動では、道具や資機材が必要な場面が多くあります。みなさんの地域の実情にあった防災資機材を準備しておきましょう(防災資機材の整備に補助制度のある市町村もあります。詳しくはお住まいの市町村へお問い合わせください)。また、災害時に確実に使えるよう、機材を管理する倉庫の管理者(鍵の場所)を決めるとともに、定期的に整備点検し、使用法の練習や補充・メンテナンスを行いましょう。

市役所・町村役場連絡先一覧 <http://www.pref.aichi.jp/0000000276.html>

目的	防災資機材の例	
① 情報収集・伝達用		携帯用無線機(又はトランシーバー)、受令機、電池メガホン、携帯用ラジオ、腕章、住宅地図、模造紙、メモ帳、油性マジック(安否・被害状況等、情報収集・提供の際に用いる筆記用具として)等
② 初期消火用		可搬式動力ポンプ、可搬式散水装置、簡易防火水槽、ホース、スタンドパイプ、格納器具一式、街頭用消火器、防火衣、鳶口、ヘルメット、水バケツ、防災井戸等
③ 水防用		救命ボート、救命胴衣、防水シート、シャベル、ツルハシ、スコップ、ロープ、かけや、くい、土のう袋、ゴム手袋等
④ 救出用		バール、はしご、のこぎり、スコップ、なた、ジャッキ、ペンチ、ハンマー、ロープ、チェーンソー、エンジンカッター、チェーンブロック、油圧式救助器具、可搬式ウィンチ、防煙・防塵マスク、ヘッドライト付ヘルメット、突き刺し防止手袋、ゴーグル、ホイッスル等
⑤ 救護用		担架、救急箱、テント、毛布、シート、簡易ベッド等
⑥ 避難所・避難用		リヤカー、発電機、警報器具、携帯用投光器、標識板、標旗、強力ライト、簡易トイレ、寝袋、組立式シャワー等
⑦ 給食・給水用		炊飯装置、鍋、コンロ、ガスボンベ、給水タンク、緊急用ろ水装置、飲料用水槽等
⑧ その他		簡易資機材倉庫、ビニールシート、携帯電話機用充電器、除雪機等

備えるポイント!

地域内で機材の使用に手慣れた人を見つけ、講習会の指導役として招き、顔見知りになる等、いざという時に頼れる方々とつながりを持ちましょう。例えば防災に役立つ資機材を商品として生産する企業と普段から交流を持ち、資機材の使い方などを地域住民へ伝える等の取り組みが考えられます。

催事に参加した企業による段ボールハウス展示



3 防災訓練や研修会等の住民参加型の行事を実施していますか？

災害に対する正しい知識があっても、いざ直面した時は、自分自身が被災をしたり、ケガなどで動揺したりして、なかなか頭で思うような行動は取れないものです。災害時に適切な行動をするためには、普段からの訓練で体を動かして実践しておくことが大切です。訓練のほか、住宅の耐震化や家具転倒防止対策の啓発といった日常の活動を通じ、住民同士の顔の見える関係づくりが災害時の円滑な活動につながります。

●取り組み事例

マンションでの防災訓練



■階段を使った搬送訓練



■隔て板(蹴破り戸)の破壊体験

住民参加型の防災運動会



■バケツリレー



■簡易担架での搬送リレー

学校での避難所体験や炊き出し訓練



■避難所体験



■炊き出し訓練

避難所宿泊体験では…

泊まることによって、避難所生活の大変さや、非常持ち出し品の準備の大切さや、自宅に戻れるよう、住宅の耐震化や家具転倒防止対策等の必要性を実感する、等の効果が期待できます。

備えポイント!

行事を通して地域コミュニティづくりをしましょう。

防災訓練等のイベントは、地域住民に自分が自主防災組織の一員であることを自覚してもらう良い機会であると同時に、交流を深める貴重な場となります。まずは地域の皆さんが参加しやすいように、**楽しみながら防災に取り組める、イベント的な要素を盛り込む**と良いでしょう。毎年の恒例イベントとして、夏祭り等の他の行事と合同で開催する等工夫し、一過性でなく、**継続していくことが大切**です。



■消火器を使った的当てゲーム

4 防災マップを作成していますか？

地域の危険な箇所、防災施設、避難所、井戸、公衆電話、災害時における徒歩帰宅支援ステーションなどを盛り込んだ地域の防災マップを住民の皆さんで協力して作成しましょう。作ったマップは回覧板で配布したり、集会所に張り出したりして、地域みんなの目で見てもらいましょう。

<名古屋市南区 星崎学区連絡協議会の取り組み>

星崎学区連絡協議会では東日本大震災を教訓に、南海トラフ巨大地震への備えから、地域の見直しを行いました。この地域は海拔ゼロメートル地帯が多く、津波や液状化現象の心配や、耐震構造が十分でない家屋の倒壊も多く発生することが予想されています。そこで協議会では消防団員と学区役員とが中心となって、「手づくり防災マップ」作りに取り組みました。



星崎学区連絡協議会の活動記録や作成した防災マップのほか、コンテストで優秀作品に選ばれた防災マップ等が多数紹介されています。

防災コンテスト ホームページ <https://bosai-contest.jp/>

備えポイント!

防災マップを作成する際には、大人だけでなく、**子どもたちの意見も聞いて作成**すると、地域全体で防災意識の高まりを期待できます。また、定期的に再確認したりして**新しい情報に書き換えておくことも必要**です。

